

茨高
茨中

春 秋

発行
茨高・茨中 P T A
編集
茨高・茨中文化広報委員会
水戸市八幡町16-1
電話 029(221)4936
茨高・茨中公式ホームページ
<http://www.ibaraki-jsh.ed.jp>
印刷 いばらき印刷(株)



ごあいさつ
PTA副会長 笹目 信次郎

皆様こんにちは。
PTA会員の皆様には平素より茨城中学・高等学校PTA活動にご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

現在、世界は目まぐるしいスピードで変化しています。十年ひと昔と言いますが、今は五年、三年といった感じがします。皆様はいかがでしょうか。世の中はIT化のスピードが更に加速し、働き方や生活が変化しています。その中で生きていく私達にも様々な変化が求められています。その様な中で暮らす子どもたちに、これからどんな未来が開いていくのでしょうか。私の好きな言葉に、知足というものがあります。本来の意味とは違いますが、足るを知るという意味で理解しています。自分に今ある力や環境などを冷静に見極め、現状を冷静に見つめること。そうすることで、自分にあるものは更に伸ばす努力をしないものはどうすれば身につくのか考える。こういう意味が知足という言葉にあると思います。多様性の求められる世の中で、これからの時代を背



負っていく子どもたちが、色々な可能性を拓くための基礎を、茨城中学・高等学校で学んでください。学校生活で体験した楽しいことや苦しいこと、様々な経験が身につくことでひとりひとりの人間を成長させていくでしょう。人は人でしか磨けないと言います。自分磨きに最適な環境が皆さんの学び舎にはあります。建学の精神の「報恩感謝」を胸に学校生活を謳歌してください。そのために先生方と保護者は教育環境の向上に努めていきます。これから新しい社会に羽ばたくための力を蓄える皆さんに少しでも素晴らしい環境を整えていきます。その中で、大きく成長してください。茨城中学・高等学校で学べることを誇

りに思える学生生活が送れることを期待します。最後に、ダーウィンの言葉。「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである」。これからの時代を担う皆さんにこの言葉を送ります。



助け、助けられ、それが学校生活
校長 鬼形 正人

学校生活にとって、行事はとても大切なものです。友との関係も深まり、学校生活をより豊かなものにしてくれます。九月九日(月)が台風十五号のため休校となったにもかかわらず、その翌日、十日(火)のクラスマッチが実施できたことはほんとうによかったと思います。たいへんな猛暑の中での実施となりましたが、中学・高校共に熱中症や大きな怪我もなく無事一日を終えることができました。生徒会・実行委員の諸君の配慮と生徒諸君一人一人が集中力をもってクラスマッチに臨んでくれたからであると思います。「クラスマッチを楽しもう。盛り上げよう」という思いが実行委員と生徒諸君の間で共有されてきました。



十月九日(水)には芸術鑑賞会を実施しました。東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、松本宗利音さんの指揮によりクラシック音楽を鑑賞しました。特筆したいのは、後半に演奏されたチャイコフスキー「交響曲第五番」短調作品六十四です。五十分を超える演奏に対して本校生徒はきちんと集中して聴いていました。そこには指揮者や楽団の皆さんの本気に応えようという本校生徒の思いがありました。「空気感」という言葉があります。ネット情報が氾濫する世の中ですが、PC等を介してでは決して伝わらないものです。その場に一緒にいることでしか感じることでできないものを感じます。本校生徒はクラシック音楽鑑賞のなかで、演者や指揮者と空気を共有していました。そして一緒に空気を創り上げていました。すばらしいと思います。九月三十日(月)前期終業式において、全校生徒諸君に、interdependenceという言葉を紹介しました。「自立」という言葉は、本来 independenceではなく interdependence ではないだろうか?と話しました。家庭から離れ、一人で社会の中で生きていくことを自立と言います。しかしそれは関係を断ち切って一人で生きていくということではありません。相互に助け合える関係を家族以外の場所でも創っていくことではないでしょうか。学校は家庭と社会をつなぐ役割を担っています。したがって学校は相互に助け合える関係 interdependence を創るトレーニングをする場所であるとも言えます。では相互に助け合える関係はどうやって作っていくべきなのでしょう。まずは自分が「助けてくれ」と言えはいいのです。助けられた君は、後日必ず助ける側にもなります。茨城高等学校・中学校で学ぶ仲間達との関係をより深めていきましょう。それが報恩感謝の学び舎で学んだことの大切な証であると思います。

沖繩



沖繩担当 打川 真人

那覇の風は少し涼しかったが、やはり南国の日差しには違いなかった。轟壕やひめゆりの塔など南部戦跡を巡って、戦争の悲惨さと平和の尊さを学んだ。黒糖づくりやシュノーケリングなどのマリンスポーツで豊かな自然を肌で感じ、一泊の民泊は沖縄の人々の生活に触れる良い機会となった。十九人の生徒達はどっぴりと「沖繩」に浸かった。



二一D 會澤 俊樹

沖縄で出会った人々は皆自分達の文化を理解し、誇りを持っていた。多様化していく社会を生き抜く逞しい姿がそこにはあった。

来年からあの美しい自然や文化、人々に触れる機会が無くなってしまふのは非常に残念だ。

二一F 清水 文香

生まれて初めて闇を見たと思った。壕の中でライトを全て消した時、そこにあったのは闇以外の何物でもなかった。目を開いても閉じても変わらない光景に衝撃を受けた。戦争の愚かさ、人間の残酷さが未だにあの場所には残っているように感じる。

シンガポール

シンガポール担当 作山 友孝

二期に入る十一月だということに、現地ではほとんど雨が降らず、順調に日程をこなすことができました。ホームステイ、企業見学、シンガポール国立大学の学生との交流、マレーシアに渡ってのキャンボン体験等、個人旅行では味わえない一生の宝となる貴重な体験ができました。

二一E 亀山 遥南

一人では経験することができない、とても充実した5日間でした。ユーモアがあつて明るいホストファミリー、一緒に楽しさを共有した友達、普段とは違う先生たち、たくさんの人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

二一F 長洲 翔梧

多くの期待と不安を胸に寄せ、私は日本を発った。現地では基本的に英語を用いての行動であり、多民族国家ならではの文化を肌身を感じる事ができた。今回は異文化理解に繋がると同時に日本文化の良さを改めて実感できた貴重な体験となった。



カナダ



二一E 小林 美咲

私達はこの研修旅行で充実した五日間を過ごすことができました。初日はホストファミリーとどこかぎこちない英語で会話をしていた私達ですが、最終日には泣いて別れを惜しむほど仲良くなった友達もいました。この研修旅行で多くのことを学べてとてもいい経験ができました。

二一G 村山佳菜子

カナダコースはすべての宿泊がホームステイだったため、初日の生徒の表情には緊張と不安の色が見られた。しかし、現地校の生徒やUBL学生との交流を通して、どんな生徒の表情が明るくなったといったのが印象的だった。今回の経験を、成長の糧にしてくれることを心から願う。

カナダ担当 遠藤 純

中三 研修旅行

中三学年主任 柴田 孝司

学ぶことは勿論ですが、全員が楽しく行こうということを目指して行っていました。

この学年は、どんな宿泊行事でも体調不良者が出ないのですが、今回も保健室のお世話にならず、四日間全員が全行程に参加できた事が何より良かったです。

初日の奈良公園周辺散策では一グループ十数名、三日目のタクシー研修も各班四名程度という少人数で行動したお陰でガイドさんやタクシーの運転手さんの興味深いお話を十分すぎるほど伺えました。ただ一方的に聞くだけでなく会話が出来たことにより、より理解も深まり興味関心も増したのではないのでしょうか。二日目のクラス別行動で印象に残ったのは平等院の改修でした。今までの平等院と



はかなり雰囲気が変わり違和感が強く残りました。修復作業は必要なものですが、その建物が今まで培ってきた伝統や空気感をそのまま上手に残して欲しい。私はいかがだったでしょうか。

研修旅行は事前学習がとても大事です。本やネット情報もありますが、出来れば研修旅行前に奈良京都に行ってみるといいよと生徒の皆さんには勧めました。実際の体験に優るものはないと思うからです。とはいえ、

今回が初めてだった人も多いと思いますので是非奈良京都にまた行ってみたい。事後レポートを書いてもらいますが、また行ってみたいというのが一番の事後学習だと思います。行けば行くほど魅力的で引き込まれていく空間だと思います。特に奈良京都は。

三一A 井坂 京愛

三泊四日の研修旅行を無事に終えて、私達は色々な事を学び沢山の思い出を作る事が出来ました。

特に私が一番楽しみにしていたのは、自分達で計画を立てて回るタクシー研修でした。

朝から着物を貸りて、京娘になった三人の友人と、八坂庚申堂のくくり猿、伏見稲荷大社の千本鳥居、予約をして行ったお昼の焼肉店、清水寺の参道のお土産売場、どこをとっても絵になる風景、雨にも見舞われましたが、一生忘れられない思い出になりました。

又、世界遺産、座禅や能、和菓子作りなど様々な日本の文化に触れた事で日本文化の意外性、神秘性、そして壮大さを身をもって実感出来たと思います。これからも日本の伝統文化を沢山勉強していきたいです。



三一B 石川 佑



僕はこの研修旅行で、奈良・京都の魅力を存分に知ることができました。

最初に訪れた奈良では、東大寺や法隆寺で歴史的建築物に触れ、昔の人々の偉大さが分かりました。

次に訪れた京都では、タクシー研修を行い、事前に自分たちで決めた場所に行き、学びを深めました。僕がこのタクシー研修で特に印象的だったのは、龍安寺です。龍安寺で石庭を眺めていた十五分程度の時間は、あつという間に過ぎました。その他にもクラス別行動では、座禅を行うという貴重な経験ができました。

奈良・京都で四日間、友達と一緒に楽しく、たくさんのお話を学ぶことができ、良かったと思います。

三一C 小宅日奈子

私にとっては初めての奈良・京都。歴史を感じながら、学年のみんなと過ごした研修旅行はとても有意義な四日間でした。なかでも、心に残ったことは二つあります。

一つ目は、奈良にある東大寺です。現代にも劣らない建築技術、十五メートルを超える大仏の大きさに圧倒されました。

二つ目は、タクシー研修です。まず楽しかったのが、自分達で計画を立てたことです。行く場所やルート、かかる時間などを調べ、検討しました。そのためか、実際行ってみると想像を上回る楽しさでした。二条城、組紐作り、着付体験、建仁寺などを回りながら、京都の歴史を学んできました。

まだまだ回りきれなかった所がたくさんあるので、また行きたいです。



三一D 森田 珠莉



今回の研修旅行では、研修旅行委員長を務めさせて頂きました。まず、事故や問題も起こらずに帰ってくる事ができて安心していきます。研修旅行中は、日常生活では学べないような多くの事を体験する事が出来ました。自分達で、考えたテーマに沿ってプランを考えたりする事や、三泊四日もの間同級生との集団行動、そして何より奈良・京都でしか見ることの出来ない由緒あるお寺や神社、国内外からも人気のある唯一無二の町並みなど。ここには書ききれない程の思い出を作ることができました。いつかまた「奈良・京都へ行きたいな」と思えるようなとても有意義な研修旅行にすることができて良かったです。

PTA校外研修

PTA幹事 星野 伸代

十月三日第十七回PTA校外研修会を実施いたしました。

茨城大学水戸キャンパスを見学後、水戸プラザホテルにて昼食をとり、弘道館見学というコースでした。

茨城大学では概要説明及び入試関係説明の後、本校卒業生で茨城大学一年生三名の方々にインタビュー形式でお話を伺い、和やかな雰囲気の中大変参考になりました。先輩方のしつかりした受け答えに感動し、誇らしく思われた方も多かったのではないかと思います。また、普段では拝見することができない研究室を特別に見学させていただきましたことができました。教授や学生さんにとっても熱心にご説明していただき大変貴重な体験ができたことと思います。

水戸プラザホテルでは、美味しいお料理をいただきながら、校長先生をはじめ、先生方やPTAの皆様と、ゆつくり楽しいひと時をお過ごしただけだったと思います。

本校とゆかりのある弘道館では、歴史アドバイザーの方に案内していただきました。初めて聞くことも多く、弘道館について改めて勉強させていただきました。

皆様のご協力のもと、無事PTA校外研修会を終えることが出来ましたことを大変感謝しております。

至らない点も多々あったことと思いますが、「PTA会員相互の親睦を深め教養を高める」というコンセプトのもと、皆様からのアンケート等、ご意見を参考にしながら皆様に喜んでいただけますようこれからも企画してまいりますので、来年度も楽しみにしててください。



国体(炬火走者)



中三ーB 矢部 美翔

多くの方々から声を掛けて頂きあなたをかきを感じた地元、常陸太田市を代表として炬火走者が務められ、とてもうれしかったです。当日は、陸上部として、きれいなフォームで走ることを目標に開会式に挑みました。何度もしなりの協力や支えがあつて成功した茨城国体の舞台裏も見ることが出来ました。各市町村の炬火の一つになる瞬間を近くで見ることが出来たことも感動的でした。この経験をバネにこれからの国体では選手として参加し、いつかは日の丸を背負うアスリートとして活躍したいです。



中三ーC 川又 弘聖

四十五年ぶりの茨城国体、開会式には、多くの人が集まり、ほぼ満席状態でした。そんな中で走ったのでとても緊張しました。令和初の国体が茨城で開催され、それに炬火走者という重要な形で関わることができて、とても嬉しかったです。それとともに多くの人に応援の言葉をかけていただき、「代表として走る」という責任をも感じました。僕は、東海村の代表として、炬火走者を務めました。地元のことを背負って走ることができたと思います。茨城での国体に「炬火走者」という形で関わり、参加したということは、僕にとって一生涯の思い出になると思います。



大学見学会

東京大学 高一生 参加者

水戸を出て二時間半。バスから降りて正門をくぐり、木々を抜け初めて目の当たりにした安田講堂は、次の優れた意欲ある学生を待っているようで荘厳たる風格を持っていました。

私はいくつか企画や模擬講義に参加しましたが、その中でも地震研究所での公開講義では、最先端の研究を時には味噌汁の例を用いて分かりやすく説明していたので、とても好奇心がくすぐられました。一般の大人の方も多く参加していて、教養の場としても大学が機能しているのだと感じました。

一日目の夕方には、茨高出身の先輩方との夕食会があり、優しい先輩方に勉強法や高校時代の生活などを教えていただいたり、大変貴重な機会となりました。とても意味のある二日間でした。



東北大学 高一生 参加者

私は、東北大学と東北医科大学のオープンキャンパスに参加しました。大学の研究室は、施設が充実していたのが印象的で、模擬授業を受けたり、大学生が普段使っている実習室などを見学し、大学全体の雰囲気を感じることができました。

卒業生の方々と夕食会では、勉強のことや、大学の各学部について、分かりやすく教えてもらいました。大学見学の二日間は、あつという間でしたが、その中で学べた事がたくさんあり、とても有意義な時間でした。

卒業生の方々と夕食会では、勉強のことや、大学の各学部について、分かりやすく教えてもらいました。大学見学の二日間は、あつという間でしたが、その中で学べた事がたくさんあり、とても有意義な時間でした。

結 果

高1	高2	高3
1位:F組	1位:F組	1位:B組
2位:A組	2位:G組	2位:C組
3位:C組	3位:C組	3位:G組
4位:E組	4位:E組	4位:A組
5位:D組	5位:B組	5位:F組
6位:B組	6位:A組	6位:D組
7位:G組	◇:D組	7位:E組



クロスマツチ

高 校 : ひたちなか総合運動公園

中 学 : 茨城中学校



結 果

中1	中2	中3
1位:B組	1位:B組	1位:A組
2位:D組	2位:D組	2位:B組
3位:A組	3位:A組	3位:C組
4位:C組	4位:E組	4位:D組
	5位:C組	



エンパワーメントプログラム 2019

7/29日
8/2日

英語科 坪井明日香

今年七月二十六日から八月二日までの五日間、プログラムが行われました。高二から中三までの二十七名の生徒が参加し、延べ七名の外国人講師や留学生と楽しく活動しました。

このプログラムでは、五、六人の中高生と一人の留学生がグループを組み、進行役の講師の指示で様々な題材について、話し合いや発表を行います。プログラムは全て英語で行われるので、参加生徒は準備が大変な様子でしたが、留学生の温かいサポートもあり、全員が最終日まで一生懸命に取り組みました。

初日の留学生のスピーチでは、彼らの夢や目標、そのために努力していることを聞き、生徒達は大いに刺激を受けました。また、各グループでは、ポジティブシンキングの重要性や自分の長所、リーダーに必要な資質について話し合い発表しました。英会話が上達するだけでなく、自己肯定感を高め、夢や自信を与えてくれるのも、このプログラムの特長です。



最終日には、生徒一人一人がこの五日間で学んだことや将来の夢、そのために取り組みたいことについてスピーチを行いました。緊張してごこちない初日の様子とは打って変わって、人前で堂々と自分の意見を述べる彼らの姿は輝いていました。この経験は生徒達にとって今後の大きな糧となることでしょう。

僕は、今回エンパワーメントプログラムに参加する前は、本当に五日間も英語だけでコミュニケーションがとれるか不安でした。いざ始めてみると、最初の一日目こそ緊張してあまり話す事が出来ませんでした。しかし、徐々にグループの人達と仲良くなり、自分の意見を言えるようにもなりました。そして、外国人の先生とも積極的に、英語で話せるようになりました。



中三D 鈴木 大耀

僕は、このエンパワーメントプログラムから、英語だけでも、誰とでも仲良くなれることを知りました。このプログラムはとても貴重な五日間でした。この五日間で学んだ事を生かして、英語力を高められるようにがんばりたいです。

エンパワーメントプログラムの目的は、英語の能力を高めることが目的です。このプログラムを通して、僕は高められたと思います。それも、担当の先生や同じグループの友達のおかげでした。



修了証書をもって笑顔!!

高一A 根本 美咲

挑戦ばかりの五日間でした。このプログラムでは毎時間、グループで話し合った事をプレゼンしました。初めの頃は意見を言うのが恥ずかしく、小さな声で話す事しか出来ませんでした。しかし、外国人の先生方が私達の意見を褒めてくださり、徐々に自信がつくと共に発表することが楽しくなりました。英語を学ぶこと、話すことの楽しさを知り、次の日の予習を三、四時間やったり、独り言を英語で言ったりするようになるなど自分で驚くほど変わることが出来ました。

高二A 田所明日香

「エンパワーメントプログラムの学生と共にいくつかのグループに分かれ、ディスカッションするというのが、今年が私一人だったということもあり、初日は言いたいことが喉に詰まってしまっていたのですが、日に日に皆の緊張が解け、拙い英語ながらも少しずつ自分から話しかけたり、会話がが続くのがとても楽しく、終了後の達成感や自分の自信になりました。最初は五日間が不安で長く感じられたのですが、終わってしまうとあっという間で、もっと話したかったなと思えました。

このプログラムは論理的な英語ではなく、「伝える」「話す」が中心で、文法が苦手な私でも楽しめました。英語を好きになるきっかけや、学ぶモチベーションに繋がると思っています。このプログラムで得たものを糧に、将来に向けて、やるべきことに集中して取り組みたいと思いました。



本気でやれば本気で楽しめる事を知りました。エンパワーメントプログラムの間、参加している全員が本気で考え、本気で議論していました。日本語で議論しても難しいテーマばかりでしたが、全ての問いの答えを出し有意義な議論が出来ました。外国人の先生方の明るく前向きに積極的に学ぶ姿勢を見習い、私も挑戦を重ね、進歩していきます。貴重な体験をありがとうございました。